

平成26年度 学校評価 総括評価表

徳島県立名西高等学校(全日制)

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針	
			評価指標と活動計画	評価			
希望の進路をかなえさせる	①望ましい人生観・職業観の育成と進路実現	進路課	<p>評価指標</p> <p>① 生徒に進路情報を随時提供することができたか。</p> <p>② 職場開拓を5社以上行うことができたか。</p> <p>③ 就職希望者に対して2回以上の面談を行い、希望が達成できるように支援することができたか。</p> <p>④ 最終進路先に満足する生徒の割合が90%以上、本校の進路指導に満足する生徒の割合が90%以上であったか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 就職に関する情報を掲示や伝達により随時行った。</p> <p>② 5社行った。</p> <p>③ 担任を中心に2回以上の面談を全員に対して行った。</p> <p>④ 最終進路先に満足する生徒の割合が91%、進路指導に満足する生徒の割合は94%で、いずれも昨年より上昇した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 厳しい内定情勢の中で担任や就職担当の粘り強い指導と対応の結果、最終的には多くの内定を得ることができた。ただ、第1希望の企業に採用されなかったケースが少なからずあり、採用試験に合格するだけの基礎学力の向上が課題である。</p>	<p>○建設業は人手不足だが、即戦力が求められている。今、需要が多い業種は何かなど、その時々々の状況を踏まえた情報提供も大切である。Word・Excelなど、各種資格の取得も有効である。</p> <p>○情報提供を効果的なにするため、量や質の精選を行う。 ○2年生から就職ガイダンスに参加させるなど、就職に対する意識づけを早くから行う。 ○最終進路先に満足する生徒の割合と進路指導に満足する生徒の割合が今年度以上になるにはどのような対応が必要なのか、学年団や進路指導課で連携をとり進路指導を進めていく。 ○進路実現のために必要な基礎学力の向上へ向けた地道な取り組みを各教科と連携して進めていく。</p>	
		進路課	<p>活動計画</p> <p>① 生徒に進路情報を随時提供する。(「木鐸」年1回、職場体験やオープンキャンパス等各種案内随時)</p> <p>② 職場訪問を20社以上行う。</p> <p>③ マッチングフェアを利用し、ハローワークと連携を深め、未決定者への支援を行う。</p> <p>④ 生徒の進路相談に随時応じ、丁寧な進路指導を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 情報誌の配布やパンフレットの掲示を適宜行った。また業者による学校案内頒布会を開催した。</p> <p>② 26社行った。</p> <p>③ マッチングフェアへの参加により11名が内定。ハローワークと連携をとりながら希望者との面談や相談を繰り返し行った。</p> <p>④ 何に悩んでいるのか、どんな情報が欲しいのかをよく聞いて対応することを心がけた。</p>			
		進路課 3学年共通	<p>評価指標</p> <p>⑤ 講演会や進路集会を各学年2回以上開催したか。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>⑤ 目標の回数は実施できた。</p>			<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 生徒が取り組む姿勢が来校者から高く評価されていたように、生徒は積極的に取り組んでいたし、話を聞いていた。</p>
		進路課 3学年共通	<p>活動計画</p> <p>⑤ 進路に関する講演会や学年別進路集会を通して、学力向上への意欲や望ましい職業観の確立を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>⑤ 進路講演会は1年生1回、2年生1回実施。1、2年生で職業別進路講演会と学問分野別進路説明会を各2回、3年生は進路集会を2回実施した。また、卒業生を招く進路座談会を開催した。</p>			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	総合評価		
自己肯定感や他者を尊重する姿勢を持てるよう指導する	②豊かな人間性を育てる心の教育の推進	人権教育課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 適宜人権課題に関する共通理解を図ることにより、生徒の理解を深められるよう、各ホームルーム、各学年団、生徒会活動等において、担当教員による教材や指導の工夫が見られた。その結果、人権課題について、全体として生徒の意欲や関心を育てている。	○LINEを介しての問題行動が全国で多発しているが、大丈夫か。友達には言えても、親には言えないという状況もある。子どものSOSのサインを見逃さない体制づくりが重要である。	○次年度も機会を捉えて教職員の共通理解を図り、認識を深められる場を設けて生徒の指導に生かしていけるようにする。また、生徒が学んだことをより態度や行動につなげられるようにして、生徒の自主的活動を促進する。
			① 人権に関する課題について教職員間で共通認識が持てたか。	① 各学期の職員会議や研修会や学年ごとの検討会を通して人権課題について共通理解を図ることができた。			
			② 生徒による人権意識を高める活動を推進することができたか。	② 適宜生徒会人権委員会を開いたほか、各ホームルームの人権委員を個別に支援して、生徒による活動を推進できた。			
		③ 人権や人格を尊重する生徒の意識や態度を育てることができているか。	③ 本校で扱った様々な人権課題について大半の生徒が関心を持ち、その解決について前向きな態度を示した。				
		人権教育課	活動計画	活動計画の実施状況			
			① 学年検討会や人権教育研修会を開催したり、校外の研修会に参加して職員会議等の機会にその報告を行ったりする。	① 学年検討会や校内人権教育研修会をとおして人権課題について、全体として教職員の認識を深めることができた。また各学期の職員会議の場で校外研修会の報告を行い、内容を共有できた。			
② 生徒会人権委員会による人権に関する展示や朝の朗読を行う。	② 文化祭の人権作品展や「名高人権の日」の朝の朗読に人権委員が意欲的に取り組んだ。						
③ 3年生対象の「人権に関する意識調査」において、人権課題に取り組む意欲を示す回答を70%以上にする。	③ 3年生対象の「人権に関する意識調査」において人権課題解決に取り組む意欲や関心を示した回答が80%に達した。						
生徒指導課 教育相談	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) いじめ防止の取組を徹底し、大きないじめ問題が発生することはなかった。また教育相談では、ケースに応じた各種会議を実施し、生徒理解やその対応について共通理解に努め、適切な対応ができた。	○次年度もいじめはどの子どもにも起こりうるという認識のもと、全教職員で未然防止に取り組みたい。また、より多くの大人が子供の悩みや相談を受け止めることができるようにするため、学校と家庭、地域が組織的に連携できるような体制を構築していきたい。			
	④ 学校いじめ防止方針に基づき、いじめ防止に取り組めたか。	④ 年度当初の職員会議で共通理解を図り、いじめ防止に全教職員が共通実践を展開できた。					
⑤ 必要に応じた職員研修やケース会議が実施できたか。	⑤ 不登校対策委員会、特別支援教育委員会、教科担任会を実施し共通理解に努めた。						
生徒指導課 教育相談	活動計画	活動計画の実施状況					
	④ 年間計画を作成し、未然防止の取り組みを徹底させる。	④ 本校の実態にあった年間計画を作成し、アンケート調査など未然防止の取組を行うことができた。					
⑤ 教科担任会や学年会・職員研修を計画し、効率的に運用する。	⑤ 教科担任会や学年会は必要に応じてその都度開催し生徒の状況把握に努め、情報交換、その対応について理解した。						

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
生徒の自主的な活動のサポート体制をさらに強化する	②豊かな人間性を育てる心の教育の推進	特別活動課	評価指標 ⑥ 全校生に趣旨の徹底をはかるとともに自発的にとりくむことができたか。	評価指標の達成度 ⑥ 全校生に募金活動の趣旨の徹底をはかることはできたが、自発的にとりくむことまではできなかった。	総合評価 (評定) B (所見) 生徒会役員が中心となり募金活動を実施し概ね達成できたが、自主的・自発的な活動とまでは難しい。	○募金だけでなく、他のボランティア活動にも活動の幅を広げて、より活性化していただきたい。また、生徒たちの自主的な活動を、学校としてもしっかりとアピールしていくことが大切である。
		特別活動課	活動計画 ⑥ 生徒会が中心となり、自主的に募金活動等のボランティア活動を実施する。	活動計画の実施状況 ⑥ 生徒会役員が中心となり、朝読時に募金を呼びかけたり、各HRに募金箱を準備したりして、NHK歳末たすけあい・海外たすけあい等の募金活動を実施した。		
	図書課各学年	評価指標 ⑦ 全教職員の理解を得られるように、「朝の読書」の主旨を知らせ、協力を得られたか。	評価指標の達成度 ⑦ 4月の職員会議で、協力・指導を依頼した。平成26年度学校評価アンケートで、「『朝の読書』をしている」と回答した教職員は65.9%であった。	総合評価 (評定) B (所見) 忙しい中、先生方の協力を得て、静かな朝の読書時間を持つことができていく。	○ これからも、読書を楽しむ雰囲気、全教職員で作っていく。 ○ 「朝の読書」が読書習慣につながるよう10分間読書を楽しんでもらう。	
		⑧ アンケートを実施して結果を周知し、改善を図ったか。	⑧ 読書時間調査の結果及び図書館の利用状況を名高ライブラリーや校誌「藤波」に掲載し周知した。図書館への来館者に対して読みたい本のリクエスト等アンケートを実施した。			
	図書課各学年	活動計画 ⑦ 「朝の読書」を充実させるため、原則として全員の教職員が指導に当たり、生徒も教職員も読書を楽しむ。また楽しめていない生徒への関わりを深めてもらう。	活動計画の実施状況 ⑦ 原則として3年生は毎日、1・2年生は月・火曜日に実施している。担任・副担任の協力を得て、クラス全体で読書を楽しむ時間をもつことができた。	○ 様々なジャンルの本がある学級文庫になるようにさらに充実させていく。		
		⑧ 「読書の生活化プロジェクトⅢ」の取り組みとして、年2回、家庭での読書時間調査を実施する。結果を周知し、人生に潤いをもたらす読書活動を定着させていく。	⑧ 9月と2月に家庭での読書時間調査を実施した。「朝の読書」の10分間が学校生活の中で潤いの時間になっている。			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策			
			評価指標と活動計画	評価					
計画的・効果的な情操教育を展開する	②豊かな人間性を育てる心の教育の推進	環境教育課	評価指標	⑨ ゴミの分別をすることがECOにつながることを自覚させることができたか。	活動計画の実施状況	総合評価 (評定) B (所見) ゴミ分別のチェック表の提出率をさらに上げる。環境美化や奉仕の精神は養われている。	○学校版環境ISOの取得の推進などをとおして、引き続き環境教育に取り組んでいってほしい。	○チェック表未提出のクラスをなくす。ゴミ分別や節電・節水がECOにつながることを意識させる。	
			⑩ 環境を整え学習効果をあげるとともに、美化を推進することができたか。	⑩ 教員、生徒共に毎日の掃除や大掃除を積極的に行い、環境美化に取り組んだ。					
			⑪ 地域の美化に貢献する気持ちを育て、奉仕の精神を養うことができたか。	⑪ 環境委員、生徒会委員、保護者が協力し12月の校外奉仕活動を積極的に行った。					
		環境教育課	活動計画	⑨ ゴミ分別チェック表を毎月提出する。	活動計画の実施状況				⑨ 提出率70%であった。
		⑩ 月に1回大掃除を実施する。	⑩ 月毎に大掃除を実施した。ワックスがけを6月・12月に実施した。						
		⑪ 1,2学期末に校外奉仕活動を積極的に行う。	⑪ 予定通り、12月に実施した。						
	芸術科	評価指標	⑫ 校内展覧会・演奏会などを通して豊かな感性の伸長を図り、情操教育を展開することができたか。	評価指標の達成度	⑫ 美術科・書道科による校内での常設展示やアートフルコンサート等、校外での展覧会・演奏会などを積極的に実施し全校生徒に完成の伸長を促した。	総合評価 (評定) A	○落書きキャンパスを外に見えるように設置するなど、芸術科のある高校らしい雰囲気が他からもわかるような工夫も大切である。	○芸術科の生徒にとっては、多くの展覧会や演奏会が自身を大きく成長させたが、芸術科以外の生徒にどう働きかけ、感性の伸長を図る方法を考えていかなければならない。	
		芸術科	活動計画	⑫ 県内唯一の芸術科を持つ学校としてその有利性を発揮し、美術・書道の常時展示や文化祭等での演奏などを積極的に行う。	活動計画の実施状況	⑫ 芸術科の有利性を生かし、展覧会・演奏会を数多く実施した。本年度はスーパーオンリーワンハイスクール事業の指定を受けアートフルコンサートなどの新たな催しを企画、実行した。			
	保健厚生課	評価指標	⑬ 保健室の機能を生かし、養護教諭、カウンセラーと連携した相談支援活動を行うことができたか。	評価指標の達成度	⑬ 保健室での相談件数は56件であった。昨年度から継続してカウンセリングを受ける者が多く、カウンセラーと連携した相談活動を行うことができた。	総合評価 (評定) B	○その子に合った相談相手が学校にいかかどうかが重要だ。相談相手は同性の方が相談しやすいかもしれない。	○今後も教職員間での連携を深め、学校全体で生徒への支援を行っていく。また、相談したくてもできずに、一人で悩みを抱え込んでいる生徒への支援方法を考える。	
		⑭ 年間3回健康相談を実施し、生徒の健康保持増進に努めることができたか。	⑭ 毎学期に1回、学校医による健康相談を実施した。相談件数は5件であった。生徒の健康保持増進に努めることができた。						
		保健厚生課	活動計画	⑬ 生徒の心の悩みに気づき、担任、保護者、養護教諭、カウンセラーとの連携を図る。必要な場合は専門の相談機関等につなげる。	活動計画の実施状況	⑬ 担任等の関係教職員と情報の共有を図り、生徒の心身の健康問題の早期発見、早期対応に努めた。必要場合は、学校医やカウンセラーと連携し支援した。			
		⑭ 年間3回、学期ごとに1回、学校医による健康相談を実施する。	⑭ 毎学期に1回、計画通りに実施することができた。						

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	総合評価		
基本的な生活習慣の確立と社会人としての資質の育成	③基本的な生活習慣の確立と社会人としての資質の育成	生徒指導課 各学年	評価指標	① 遅刻数の増減を確認し、改善するよう適切に指導できたか。	① 毎日の遅刻数を記録し、増減に合わせて適切に指導することができた。	(評定) B (所見) 様々な取り組みの効果もあり、昨年度より特別指導件数や服装頭髪違反者が減少するなど、一定の成果は得られた。しかし、交通安全マナーや遅刻指導等、さらに指導方法の工夫改善を図り、指導を徹底させていく必要がある。	○交通安全街頭キャンペーン（無事カエル配布）など、様々な取組を行っている。他の生徒も巻き込んでより一層取組を充実させていってほしい。
			② 服装頭髪指導の徹底を図り、違反者が減少したか。	② 毎月行われる服装頭髪指導での違反者は、昨年度に比べて減少した。			
			③ 交通事故数と、交通ルール違反数（警察からの通知）が減少してきたか。	③ 大きな事故はなかったが、車との接触事故は数件あり、なかには重大事故になる可能性のものもあった。交通ルール違反数は減少した。			
			④ 規範意識の高揚を図り、その結果特別指導数が減少してきたか。	④ 特別指導は昨年度に比べて減少し、2件であった。			
		生徒指導課 各学年	活動計画	① 遅刻した生徒に対して、遅刻カードを記入させ、遅刻数を確認させる。また各学期で10回以上遅刻した生徒に対して遅刻指導を行う。	① 生徒に遅刻カードを記入させ、捺印の際に遅刻数や理由を確認し、個に応じた指導を実施したが、改善されなかった。		
			② 頭髪・服装が適正でない生徒への指導を行う。（全校集会時の一斉指導、また学校生活すべてでの常時指導の徹底）	② 昨年度同様、毎月の全校集会時に服装頭髪指導を実施した。また、担任や教科担任を中心に、授業や学校行事など学校生活すべてにおいて正しい服装をするように指導の徹底を図った。			
			③ 交通事故の防止と交通マナーの向上に向けた指導を行う。（街頭登校指導(月1回)・交通マナーアップ運動(月1回)・交通安全講話(年1回)・自動車免許取得のための講習会(年2回)・原付バイク講習会(年1回)の実施。	③ 交通マナーアップのため、石井署と連携を図り、交通安全講演会の開催、交通安全街頭キャンペーン（無事カエル配布）などを実施した。また登校時の街頭指導は毎日実施し、毎月の学校安全の日にも通学指導を実施した。3年生に対しては、保護者に来校いただき、自動車免許取得説明会を開催した。			
			④ 社会のルールや法律、学校の規則に対する規範意識の高揚を図る。（全校集会やホームルーム活動を中心に、機会あるごとにルールを守る大切さを理解させる）	④ 全校集会時に、毎回必ず、いじめや携帯電話についてのトラブル等について全体指導を実施した。また様々な問題について教員が共通理解を図り、ホームルームでも指導を実施した。			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	総合評価		
基本的な生活習慣の確立を目指す	③ 基本的な生活習慣の確立と社会人としての資質の育成	保健厚生課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A	○ 良い結果となっている。	○ 健康診断二次検査が必要な生徒には早期受診を勧告し、事後措置を徹底する。 ○ ほけんだよりの毎月の発行や、講演会、保健室前の掲示板にポスターを貼付するなど、生徒への健康問題の啓発活動を充実させる。
			⑤ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診、二次検査対象者の全員受診を完了することができたか。	⑤ 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診、二次検査対象者の全員受診を完了することができた。			
		⑥ ほけんだよりを学期に1回以上は発行することができたか。性にに関する講演会を年1回以上実施することができたか。	⑥ ほけんだよりを毎月発行し、様々な健康問題について取り上げた。10月1日に第1学年対象に、性にに関する講演会を実施した。	(所見) 内科検診、結核検診、心電図検査の全員受診と、二次検査対象者の全員受診ができた。ほけんだよりを毎月発行することができた。生徒の健康問題について、積極的に啓発できた。			
		活動計画	活動計画の実施状況				
		保健厚生課	⑤ 健康診断の結果、二次検査が必要な生徒に対して受診指示を周知徹底する。	⑤ 健康診断の結果、二次検査が必要な生徒に対して受診指示を周知徹底し、対象生徒の二次検査をすべて終了することができた。			
		⑥ ほけんだより、文化祭の展示などの啓発活動を実施する。性にに関する講演会を実施し、生徒の意識の向上と理解を深める。	⑥ ほけんだより、文化祭の展示などの啓発活動を実施した。性にに関する講演会を実施し、生徒の性にに関する意識の向上と理解を深めることができた。				
		特別活動課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A		○ 委員会活動や部活動と連携協力し実施する。
			⑦ 毎週1回以上実施できたか。	⑦ 毎週1回以上実施できた。			
		特別活動課	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 生徒会役員も増え、回数も増やして実施している。		
			⑦ 生徒会役員が中心となり、登校時に「あいさつ運動」を実施する。	⑦ 生徒会役員が毎週、火・水・金曜日の登校時に校門前で朝のあいさつ運動と清掃活動を実施した。			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針		
			評価指標と活動計画	評価				
基礎学力が定着していない	④新しい時代に対応した学習活動の活性化と総合的な学力の向上	教務課 進路課	評価指標	① 定期考査期間中の平均家庭学習時間2時間以上の者が各学年ともに30%以上、かつゼロ時間の者が各学年ともにゼロであったか。	① 2時間以上の学習時間実施者は、第1学期中間考査では、1年生31%、2年生29%、3年生43%。第1学期期末考査では、1年生29%、2年生34%、3年生44%。第2学期中間考査では、1年生33%、2年生39%、3年生34%。第2学期期末考査では、1年生34%、2年生45%、3年生32%。全学年平均では36%のものが2時間以上の自習時間を確保している。学習時間0時間の割合は、1学期中間で1年生13%、2年生9%、3年生2%。1学期期末で1年生5%、2年生7%、3年生4%。2学期中間で1年生6%、2年生6%、3年生6%。2学期期末で1年生4%、2年生6%、3年生3%。全体平均では6%であった。	(評定) B	○自主的な勉強を促すような工夫を引き続きお願いしたい。	○学習時間計画表の見直し ○生徒の学習への動機付けの方策の検討 ○欠点取得者特別補講の在り方の検討 ○STの成果を検証し、家庭学習の定着と基礎学力の向上にさらに努め、「できる」を実感できることにより自信をつけさせる。
		教務課	② 授業時数確保に努める。	② 出張、年休による授業振り替え率は90%以上であり、極力自習の時間を減らした。また、授業カットも減少させ、授業時間確保に努めた。				
		進路課	③ ST(ステップアップトレーニング)において、1年国語では確認テストの平均得点率7割以上の者が70%以上であったか。2年国語では漢字検定の各級合格者が60%以上であったか。1、2年数学では各問の正答率が80%以上であったか。英語は平均得点率6割以上の者が30%以上であったか。	③ 国語の1年生は目標を達成したが、2年生では達成できなかった級があった。数学では1、2年生とも達成できなかった。問題、分野によって差がある。英語では1、2年生とも目標を達成した。各教科とも問題の難易度や内容、課題への生徒の取り組み方などを検証し、次年度へつなげていきたい。				
		教務課 進路課	④ 家庭学習時間を確保させるために、各教科でSTの実施曜日にあわせた家庭での課題を計画的に実施する。	④ 課題はSTごとの実施した。個人により長短はあるものの、ある程度は家庭学習の時間確保に役立ったと思われる。				
		教務課 進路課	⑤ 欠点者数の割合が、前学期或いは前年度よりも減少したか。	⑤ 欠点取得者数について、1学期は前年度比較で減少した。2学期は前年度比較で減少した。前学期比較では欠点取得者は増加した。				
		教務課 進路課	⑥ 成績不振者への対応ができたか。	⑥ 1・2学期においては、欠点取得者に対し課題を出すとともに特別補習や確認考査を実施しその解消に努めた。				
		教務課 進路課	活動計画	活動計画の実施状況				
		教務課 進路課	① 学習時間調査を実施し、生徒に対する意識付けを行い家庭学習時間ゼロをなくす。	① 考査時間割発表から学習時間調査を実施し、計画的に学習ができるように学習時間表を配布した。また、担任の先生方にもチェックをお願いし、状況把握に努めていただいた。				
		教務課	② 行事などの精選を図るとともに、自習を減らす。	② 振り替えによる自習の時間は10%を切り、高い数字で授業を実施した。また、特別時間割に於いて、月曜日の時間割をベースにするなどして、その曜日の授業時間の確保に努めた。				
		進路課	③ 基礎学力の向上を図るため、国語、数学、英語でSTを実施する。	③ テスト期間等を除き各教科毎週1回ずつ実施し、国語は20回、英語、数学は17回実施した。				
		進路課	④ 1、2年生におけるSTの課題、全学年における各教科の課題を計画的、継続的に実施してもらう。	④ STの課題はSTの実施日にあわせて、授業補充の課題は週末を中心に課し、各教科における対応の中で提出物をこまめにチェックするなどして家庭学習の定着と基礎学力の向上を目指した。				
		教務課 進路課	⑤ 欠点を取らないよう、授業やホームルーム、集会等で学習意欲を喚起させ、授業態度や提出物等の指導をより徹底する。	⑤ 全校集会などでは、進路指導主事や教務主任から学習法や単位修得や未修得について等について話す機会を持った。また、HR担任や教科担任に対し、提出物の徹底や授業態度の指導などを徹底していただいた。				
教務課 進路課	⑥ 定期考査における成績不振者には長期休業中に補講や特別補講、復習課題を課し、学力補充に努めさせる。	⑥ 欠点取得者には、長期休業中に課題や特別補講、確認考査を実施しその解消に努めた。HR担任や教科担任の声かけなどにより多くのものが出席した。						

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方針
			評価指標と活動計画	評価		
読解力の向上による学力向上を目指す	④新しい時代に対応した学習活動の活性化と総合的な学力の向上	図書課	評価指標	⑥ 全校読書会や読み聞かせの会への参加者が前年度より増加したか。	⑥ 参加者は昨年度とほぼ同数であった。	総合評価 (評定) B (所見) 家庭読書時間調査の結果、1時間以上家庭で読書をする生徒が昨年度より増加している一方で、全く読書しないという生徒も増加しており、読書においても二極化が生じている。また、今年度から毎月発行している「名高ライブラリー」の図書案内を見て本を借りに来る生徒もおり、広報の効果が見られた。
			⑦ 家庭での平均読書時間10分以上の者が33%以上になったか。	⑦ 2学期に実施した家庭読書時間調査において、平均読書時間10分以上の者は29%であった。		
			⑧ 読書やステップアップトレーニングを通して、語彙力や国語常識が身についてきたか。	⑧ ステップアップトレーニングでは、スモールステップで学び直しをしているので、少しずつではあるが基礎力の充実につながっていると思われる。		
		図書課 国語科	⑨ 「名高ライブラリー」を定期的に発行し、広報を活発にしたか。	⑨ 毎月発行することができた。		
			⑩ 図書館の利用や本の貸出が増えたか。	⑩ 4月～11月の貸出冊数は1,882冊、一日平均入館者数は40.9名と昨年度より減少している。		
		図書課	活動計画	⑥ 全校読書会や読み聞かせの会の実施案内を周知して、積極的な参加を促す。参加した生徒が次回も参加したいと思えるような企画にする。	⑥ 事前にホームルームや掲示物等で実施案内を周知して参加者を募った。参加人数は昨年並みであったが、活発な意見交換がなされた。	
			⑦ 「朝の読書」の取り組みを十分に生かし、家庭での読書時間を増やしていく。学級文庫の活用や図書室の本をテーマ別に紹介して、読書へ誘う。	⑦ 図書館では、毎月テーマを決めて関連図書を展示し、読書案内を実施した。様々なジャンルをテーマにしたので、興味・関心を持って読書をする生徒もいた。		
			図書課 国語科	⑧ 読書やステップアップトレーニングを通して、語彙力や国語常識を身につけ、読解力へつなげていく。	⑧ 読書の習慣を生かし、読書感想文コンクールを始め、新聞感想文コンクールや読書体験記コンクールにも応募した。語彙力の強化や文章の理解力、表現力の養成に努めた。	
				⑨ 広報紙等により、読書の意義や各分野の推薦図書を知らせ、幅広い本を紹介していく。	⑨ 「名高ライブラリー」に生徒・教師のお薦め本の紹介や新着図書の紹介を掲載し、読書活動を推進した。	
			図書課	⑩ 図書館の利用や図書館の本の貸出を推進する。	⑩ 国語科の協力も得て、長期休業中等の課題にして、図書館の利用や図書館の本の貸出を推進した。	

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価	総合評価			
さらなる学力向上を目指す	④新しい時代に対応した学習活動の活性化と総合的な学力の向上	3 学年共通 総合学習科	評価指標	⑪ 面談を実施し、個別学習指導ができたか。 ⑫ 効果的にテキストを活用し、計画どおりに実施できたか。 ⑬ 生徒を対象とした小論文講演会を実施する。	⑪ 学期ごとに計画された面談に加え、成績通知時や機会を捉えて行う面談など、各生徒に対して平均して5回は行えた。 ⑫ ほぼ年度当初の計画に沿って実施することができた。より効果的な実施に向けて、各学年間の連携をはかり、計画を見直す必要がある。 ⑬ 2、3年は2回、1年は1回の小論文講演会を企画し、実施することができた。段階を踏んだ指導につながった。	(評定) B (所見) 国際理解教育講演会を通して、異文化理解を考えるきっかけになった。小論文のテーマの一つで国際理解を扱ったが、より深く学習するには至っていない。小論文講演会ではこれからの自分の学習活動の在り方やものの考え方・捉え方について考えるよい機会となった。また、進路についての面談等を計画・実施することによって、生徒の在り方生き方に有益な時間となった。	○生徒の実態や学校の特色を踏まえて、全体計画を見直し、体系的な取り組みを行うことが必要である。 ○小論文指導に限らず、国際理解について考える機会を設け、様々な角度から国際理解教育を実施するようにする。 ○より効果的な指導となるように、講演会の実施時期や回数について検討する。総合学習コーディネーターと学年担当の教員が連携し、事前指導事後指導の充実をはかることが課題である。	
			活動計画	⑪ 全生徒と4回以上学習についての面談をする。 ⑫ 小論文学習において国際理解をテーマとする時間を設定する。 ⑬ 国際理解・国際交流の体験・学習を小論文の形で表現できる力をつける。	⑪ クラス担任や教科担任により、学習内容の理解度や目標の達成度などに関して、密度の濃い面談、面接が行われた。 ⑫ 国際理解だけを取り上げた小論文学習の機会を設けることはできなかった。様々な社会問題について考える時間に触れるにとどまった。 ⑬ 今年度は実施することができなかった。国際理解教育講演会や姉妹校交流などの機会を捉えて、体験的な学習を表現活動につなげることが課題である。			
			3 学年共通 総合学習科	⑪ 全生徒と4回以上学習についての面談をする。 ⑫ 小論文学習において国際理解をテーマとする時間を設定する。 ⑬ 国際理解・国際交流の体験・学習を小論文の形で表現できる力をつける。	⑪ クラス担任や教科担任により、学習内容の理解度や目標の達成度などに関して、密度の濃い面談、面接が行われた。 ⑫ 国際理解だけを取り上げた小論文学習の機会を設けることはできなかった。様々な社会問題について考える時間に触れるにとどまった。 ⑬ 今年度は実施することができなかった。国際理解教育講演会や姉妹校交流などの機会を捉えて、体験的な学習を表現活動につなげることが課題である。			
		英語科	① 授業評価アンケートを実施して評価する。 ② STテストや週末課題が計画どおり実施でき、生徒の英語力が向上したか。 ③ 英検の受験者数・合格者数は増えたか。英語セミナーなどへの参加者は増えたか。	① 各学期末ごとにアンケートを実施し、それをもとに授業改善につなげた。 ② STテストや週末課題は計画どおり実施できた。生徒の英語の基礎力の伸長につながった。 ③ 英検の受験者数・合格者数はほぼ例年並であったが、英語セミナーの参加者は昨年より増えた。	(評定) B (所見) 今年から実施したSTについては、次年度は内容も再検討し、生徒の学習習慣の定着や意欲の向上につなげたいと思う。またALTの好意による昼休みの英語による放送も英語学習への動機づけにつながったと思う。次年度も計画的に実施したい。			○英語教育は大きな転換期を迎えているので今後も今以上に授業改善が求められる。本年度から始まったSTの内容をさらに検討し、特に基礎力を強化できるものにする必要がある。
		英語科	① 校内研修会などを通して授業改善を進め、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。 ② 「ステップアップトレーニング」の授業・週末課題・確認テストのサイクルを円滑に実施し、英語の基礎力を高める。 ③ 英語検定の受験や英語セミナーなどへの参加を勧め、英語力の向上を図る。	① 初任者研修の一環として各学期ごとに研究授業および研究協議を実施し、授業改善を図った。 ② 「STトレーニング」の授業・週末課題・確認テストのサイクルは生徒に定着したが、テストに向けての各自の学習度には個人差があった。 ③ 受験や参加は勧めたが、結果は昨年とほぼ同じくらいであった。				
		英語科	① 校内研修会などを通して授業改善を進め、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。 ② 「ステップアップトレーニング」の授業・週末課題・確認テストのサイクルを円滑に実施し、英語の基礎力を高める。 ③ 英語検定の受験や英語セミナーなどへの参加を勧め、英語力の向上を図る。	① 初任者研修の一環として各学期ごとに研究授業および研究協議を実施し、授業改善を図った。 ② 「STトレーニング」の授業・週末課題・確認テストのサイクルは生徒に定着したが、テストに向けての各自の学習度には個人差があった。 ③ 受験や参加は勧めたが、結果は昨年とほぼ同じくらいであった。				
英語科	① 校内研修会などを通して授業改善を進め、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。 ② 「ステップアップトレーニング」の授業・週末課題・確認テストのサイクルを円滑に実施し、英語の基礎力を高める。 ③ 英語検定の受験や英語セミナーなどへの参加を勧め、英語力の向上を図る。	① 初任者研修の一環として各学期ごとに研究授業および研究協議を実施し、授業改善を図った。 ② 「STトレーニング」の授業・週末課題・確認テストのサイクルは生徒に定着したが、テストに向けての各自の学習度には個人差があった。 ③ 受験や参加は勧めたが、結果は昨年とほぼ同じくらいであった。						
英語科	① 校内研修会などを通して授業改善を進め、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。 ② 「ステップアップトレーニング」の授業・週末課題・確認テストのサイクルを円滑に実施し、英語の基礎力を高める。 ③ 英語検定の受験や英語セミナーなどへの参加を勧め、英語力の向上を図る。	① 初任者研修の一環として各学期ごとに研究授業および研究協議を実施し、授業改善を図った。 ② 「STトレーニング」の授業・週末課題・確認テストのサイクルは生徒に定着したが、テストに向けての各自の学習度には個人差があった。 ③ 受験や参加は勧めたが、結果は昨年とほぼ同じくらいであった。						
英語科	① 校内研修会などを通して授業改善を進め、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。 ② 「ステップアップトレーニング」の授業・週末課題・確認テストのサイクルを円滑に実施し、英語の基礎力を高める。 ③ 英語検定の受験や英語セミナーなどへの参加を勧め、英語力の向上を図る。	① 初任者研修の一環として各学期ごとに研究授業および研究協議を実施し、授業改善を図った。 ② 「STトレーニング」の授業・週末課題・確認テストのサイクルは生徒に定着したが、テストに向けての各自の学習度には個人差があった。 ③ 受験や参加は勧めたが、結果は昨年とほぼ同じくらいであった。						

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
			評価指標と活動計画	評価	総合評価			
国際理解教育の推進を続ける	⑤英語教育の充実と国際交流の推進	国際課 英語科	評価指標	④ 国際交流に興味を持ち、積極的に交流ができたか。	④ 短期ではあるが、留学生を一人受け入れ、彼女と積極的に交流できていた。	(評定) B (所見) ドイツ研修旅行を実施できなかったのは残念である。次年度は県の派遣事業に応募し、生徒の経済的負担をずっと減らして参加しやすくすることを考えている。留学生の受け入れや講演会は引き続き続け、生徒の国際感覚の醸成を図りたい。	○HPの活用をさらに推進してほしい。 ○行事予定については1ヶ月前までにはHPに掲載してほしい。プリントを配布したものについても、情報発信してもらえるとありがたい。 ○相撲部は動画をアップしているが、もっと動画の活用も考えてみてはどうか。	○グローバルな時代を生きる生徒達にとって国際感覚を養うことや国際交流を経験することは大変重要なことであるので、海外姉妹校との相互訪問などの回数や時期のある程度実現可能な範囲で計画する必要がある。
			⑤ 生徒の国際理解は深まったか。	⑤ 上記の留学生との交流や「国際理解教育講演会」を通し、生徒の国際理解が幾分深まった。				
			⑥ ドイツ研修旅行の事前研修が円滑にでき、旅行が充実したものになったか。	⑥ ドイツ側の都合により本年度は研修旅行は実施できなかった。				
		活動計画	④ 海外姉妹校との交流を活発に行う。	④ 本年度はドイツ研修旅行が実施できなかったことで姉妹校との交流はあまり活発に行えなかった。				
		⑤ 海外の方や海外経験の豊富な日本人を招き講演会を実施し生徒の国際理解を図る。	⑤ ハンガリーからの短期留学生とインドから来日している徳島在住の方より講演をいただき、両国への理解や日本との違いなどを理解できた。					
		⑥ ドイツ研修旅行の事前準備・実施を円滑に行う。	⑥ ドイツ側の都合により本年度は研修旅行は実施できなかった。					
	情報視聴覚課	評価指標	⑦ 各行事の結果等についてホームページで発信できたか。	⑦ それぞれの行事について各担当及び担当より依頼を受けた課員により発信できた。				
		活動計画	⑦ 各取組をホームページを通して頻度多く発信する。	⑦ それぞれの行事については、その都度写真等を交え迅速に発信できた。				

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
国際理解教育の推進を続ける	⑥郷土や日本の伝統芸能・伝統文化の継承	芸術科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) 伝統音楽の受検希望者が少ない。今後も機会を捉えて和楽器など伝統音楽継承につなげていく必要がある。	○和楽器は、箏曲を部活動でやっているとのことだが、継続してほしい。 ○尺八や三味線など、阿波踊りとの関連で取り組んでみるのもよいのではないか。
			① 音楽科の生徒及び普通科音楽選択生に、伝統音楽や和楽器の授業を実施できたか。書道・日本画など伝統文化の継承者を育てることができたか。	① 伝統音楽については計画通り実施できた。美術・書道においては伝統文化の継承に努めた。		
		② 音楽科の和楽器専攻の受検者や箏曲・美術・書道に興味を持つ生徒が増えたか。	② 音楽科の和楽器専攻生については希望者はなかった。美術・書道の専攻生は興味を持ちよく努力した。			
		活動計画	評価指標の達成度			
芸術科	① 1・2年普通科・芸術科の授業に、和楽器の演習を年間4時間以上取り入れる。日本の伝統芸術に興味・関心を持たせ、継承者を育てる。作品等を展示し全校生徒にアピールする。	① 1・2学年とも「箏曲の演習」を4時間実施した。また美術・書道作品は常時校内に展示し、全校生徒に興味関心を持った。				
② 和楽器専攻生の募集や箏曲部の活動を積極的に進める。日本の伝統芸能や書道・日本画など日本文化を継承する人材を育成する。	② 和楽器の専攻生はいなかったが、和楽器の授業を契機に箏曲部での活動へとつながった。書道・日本画など、優秀な生徒が育っている。					

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価	総合評価		
国際理解教育の推進 ける統	⑥郷土や日本の伝統芸能・伝統文化の継承	特別活動課	評価指標 ③ 部員数は昨年度より増えたか。発表の機会は増えたか。他校生との交流は実施できたか。	評価指標の達成度 ③ 部員数は昨年とほぼ変わっていない。総文祭に参加したり、アートフルコンサートなど発表の機会も増え交流も増えた。	総合評価 (評定) A	(前項の続き)	○顧問と協力して広報活動等に力を入れるとともに部員の確保に努める。
		特別活動課	活動計画 ③ 日本文化に関する文化部活動の一層の活性化を図り、郷土や日本の伝統芸能・伝統文化の継承に努める。	活動計画の実施状況 ③ 茶道や箏曲等の日本文化に関する文化部も地道に活動しており、日本の伝統文化の継承に努めている。			
地域社会への情報発信を強化する	⑦地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	総務課	評価指標 ① P T A活動で学校と協力して校外清掃奉仕活動や、校内美化活動ができたか。 ② 文化祭でバザー、模擬店の出店や、体育祭では麦茶の提供ができたか。 ③ 高P連や生指協関連の大会・研修への参加を含め、P T A研修を実施できたか。 ④ 年1回藤花同窓会が開催できたか。	評価指標の達成度 ① P T A役員が参加して、清掃奉仕活動ができた。プランターの植栽等校内の環境美化活動に参加できた。 ② 多くのP T A会員や役員が協力して、名高祭の各行事に参加できた。 ③ 校内外、県内外の各種研修に参加し、さまざまな問題について理解を深めることができた。 ④ 多くの同窓会会員・役員により、役員会・総会および懇親会を実施することができた。	総合評価 (評定) A (評定) P T A・同窓会ともに会長を中心として、校内外の諸活動に積極的に取り組んでいただいた。それぞれ役員と一般会員、教職員が連携して、活動することができている。	○P T A活動が熱心に行われているのは良いことだ。続けていってほしい。	○地域社会との連携の土台として、P T A・同窓会をともにより活発なものにしていけるよう、さまざまな行事や事業を実施していきたい。また、P T A通信やH Pを通して活動状況を地域社会に向けて発信していきたい。
		総務課	活動計画 ① P T A役員の方々により、石井駅周辺や通学路の清掃奉仕活動を実施する。校内正門・玄関周辺の植栽(プランター)を整備する。 ② P T Aによるバザーや模擬店を文化祭で開催、また体育祭においては麦茶の提供を行う。 ③ 県高P連総会や研修会、生指協連絡協議会等に参加し研修する。校内においては大学訪問を実施し、進路について研修を深める。 ④ 第35回藤花同窓会を開催する。	活動計画の実施状況 ① P T A役員が参加して、清掃奉仕活動を2学期末に実施した。また、正門・玄関周辺の植栽(プランター)の整備・植え付けを実施した。 ② 文化祭では各家庭から物品の提供をいただき、バザーを開催した。模擬店では恒例の焼きそばの販売や、表現の部には教職員と合同のミュージカルで参加できた。体育祭では競技中に生徒・教職員に麦茶を提供した。 ③ 県高P連総会や各種研修会、生指協連絡協議会等に参加した。高P連中四国大会高知大会にP T A役員4名が参加した。7月には大学訪問(岡山県)を実施し、進路について研修を深めた。 ④ 9月14日(日)に藤花同窓会総会、合わせて第35回卒業生同窓会と合同で参加者105名で懇親会を開催した。役員会を6月、2月に開催した。			

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
地域社会への情報発信を強化する	⑦地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	教務課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A (所見) 多くの先生方から知恵を拝借し、ポスター作成や体験入学の内容などに対し、相談しながら行事をすすめていくことができた。次年度も踏襲すべきは踏襲し、新たに追加すべきは追加し、積極的に広報活動を実践していきたい。また、HPの有効活動をいっそう進めていく必要を感じた。	○ゆるキャラブームに乗って、創立90周年記念キャラクター「くおんちゃん」を今後積極的に活用して学校をアピールして下さい。 ○体験入学の広報活動について(取り組みを早める) ○入学案内についてもいっそうの充実をはかる。(中学生に見やすい入学案内をめざす) ○学校紹介の機会を増やす。(徳島市内で1カ所) ○評価アンケートを見直し、中学生や保護者や中学校教員の先生方の意見をいっそう取り入れるように努める。
			④ 「入学案内」の構成や情報内容が改良、更新されたか。	④ 入学案内は毎年教務科で見直している。本年度も在校生の写真や図表を多く用いたり、体験談を取り入れて中学生に理解しやすい様に工夫した。中学校などにも好評であった。		
		⑤ 体験入学の参加生徒や保護者に、本校教育の内容やその説明がよく理解できたと評価されたか。	⑤ 本年度の体験入学は、昨年同様に生徒による説明を多くし、生徒目線の学校説明会とした。また、一部の運動部の活動では、体験入部も実施し、活動の体験してもらった。それぞれの取り組みは好評であった。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		④ 本校教育の内容をよく理解し、わかりやすい特色にまとめ上げ、説明会等の資料にも活用する。	④ パワーポイントを使用したり、本校の年間の取り組みをスライドショーにして視覚的に紹介するなどとした。また、説明会資料もできる限りカラー化してわかりやすい資料提供を実践した。			
		⑤ 体験入学、学校説明会、HP等を通じて、本校教育の特色など本校に関する情報を提供し、中学生に進路選択に活用してもらおう。体験入学等のポスターを作成し多くの参加者を募る。理解状況は、体験入学時にはアンケート等も実施して確認する。	⑤ 体験学習においては、新しい取り組みとして運動部の体験入部を実施し、一層の本校理解を推進した。また、芸術科学校説明会の会場を1カ所増やし(藍住会場)生徒募集を図った。その結果、説明会参加者も増加した。体験入学や芸術科説明会ではポスターを作成し、公共機関や地元スーパーなどにも協力をいただき広報に努めた。アンケートもそれぞれの機会に実施した。HPについても様々な機会を通じて本校諸活動の情報を公開した。			
	情報視聴覚課	情報視聴覚課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A (所見) ホームページ閲覧者数も増加した。こまめな更新によりリピーターが増えたものと思われる。	○さらにより多くのそしてより迅速な情報発信につとめていきたい。また、新規の閲覧者を開拓するためホームページ上での目新しい企画も考えていきたい。
			⑥ 学校での様々な取組みをホームページで紹介できたか。	⑥ 各課、各部活動等による様々な取り組みが、平均すると月に15回以上程度ホームページ上で紹介された。		
	活動計画	活動計画の実施状況	⑥ 学校行事や部活動等の様々な取組みをホームページで頻度多く掲載する。月に10回以上の更新を行う。	⑥ 各担当の方々の努力と熱意により頻繁な掲載が行われ、多くの情報が発信できた。また、90周年キャラ「くおんちゃん」の活躍によりホームページが華やかに、賑やかになった。		
	芸術科	芸術科	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A (所見) 生徒・指導教諭ともアートフルコンサートをはじめ多くの行事を企画実行した。真摯に努力をすることで内容を充実させることで関心も高まり、地域社会との連携に努めることができた。	○本年度はスーパーオンリーワンハイスクール事業の認定もあり、各方面からの注目であった。次年度は更に広報活動を活発にして、芸術をより地域に発信できるような取り組みが必要と思う。そのためには、時間はかかっても地道な活動が必要である。できるだけ学校から出て活動したり、学校に地域の人達を呼ぶ努力が必要だと思う。
			⑦ 校外での展覧会・音楽会等の広報活動を行い、多くの観客を動員することができたか。	⑦ コンサート・展覧会をはじめ様々な活動を行った。ボランティアフェスティバルでは500名余り、美術展では400名余りの入場者があった。		
	⑧ 県内唯一の芸術科を有する学校として、地域社会と連携し芸術・文化の発信に寄与する事ができたか。	⑧ 多くの展覧会やコンクールで入賞し、芸術科をアピールした。また地域社会での催しや音楽会等に参加し地域社会の一員として連携することができた。				
活動計画	活動計画の実施状況	⑦ 地域社会での文化祭、展覧会、文化行事などに積極的に参加する。年間3回以上行う。	⑦ アートフルコンサート、石井町ボランティアフェスティバルや人権教育研究大会などに参加し、また、音楽科の研究演奏会・卒業演奏会を公開で実施した。			
⑧ 地域社会と連携し、校内・校外で合同展覧会・合同演奏会を行い生徒の作品や演奏を披露するとともに、地域社会での芸術活動の一翼を担う。	⑧ 芸術科だけでなく、普通科文化部や生徒会も協力し学校全体として取り組んだ。活動内容もさまざまなコラボレーションを企画し、実行することができた。					

重点課題	重点目標	主担当	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策			
			評価指標と活動計画	評価	総合評価					
地域社会への情報発信を強化する	⑦地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進	生徒指導課	評価指標 ⑨ 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して全国交通安全運動や地域安全運動に自主的・積極的に地域での活動に参加できたか。	評価指標の達成度 ⑨ 全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し活動した。石井警察署との協力において様々な活動に積極的に参加し、地域の安全に貢献した。	(評定) A	○名高パトロール隊などの取組を、学校としてもっとアピールしていくべきである。	○名高パトロール隊の活動をさらに充実させ、地域から信頼される学校にしていきたい。			
		生徒指導課 家庭科	⑩ 交通安全キャンペーンで学校家庭クラブがマスコットを製作し、自主的・積極的に地域での活動に参加できたか。	⑩ 交通マナーアップクラブと家庭クラブのメンバー、生徒会役員約30名が家庭クラブメンバーが作成したマスコット(無事カエル)をドライバーに配布する街頭キャンペーンに意欲的に参加した。						
		生徒指導課	活動計画 ⑨ 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携して全国交通安全運動や地域安全運動に参加する。	⑨ 石井警察署や青少年育成センターと連携を図りながら、部活動時にパトロールするなど、地域防犯活動を実施した。						
		生徒指導課 家庭科	⑩ 交通安全キャンペーンで学校家庭クラブが製作した「無事カエル」のマスコットを配布する。	⑩ 石井警察署や交通安全協会と連携を図りながら、秋の交通安全運動キャンペーンに参加し、交通マナーアップの向上をドライバーに呼びかける活動を実施した。						
		環境教育課	評価指標 ⑪ 避難訓練を年2回実施したか。	⑪ 地震(9月)と火災(12月)を想定した避難訓練を実施した。				(評定) B	○緊急時の保護者との連絡、安否確認の方法について、HPの活用等を検討してみてもどうか。	○緊急時に適切な行動がとれるマニュアルを活用し、今後も検証していきたい。
			⑫ 外部機関と連携した防災教育を実施したか。	⑫ 石井消防署の方々と連携し避難訓練を実施した。						
		環境教育課	活動計画 ⑪ 緊急時に適切な行動がとれるようにするため、地震・火災を想定した避難訓練を実施する。	⑪ 計画通り実施した。				(所見) 本年度は毎月20日に運動部員がキャップをかぶり、学校周辺のランニングを行い、地域の安全に貢献した。生徒に社会の一員である自覚を育てるとともに、地元から信頼される学校となるためにも活動を継続・発展させていきたい。	○本校が避難場所であるとの広報をもっとしてほしい。	
			⑫ 安全確保に対する意識を高めるため、防災教育を充実させる。	⑫ 12月の防災避難訓練では、消防署の協力による実習が行われ、防災意識を高めることができた。						

重点課題	重点目標	主担当	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
			評価指標と活動計画	評価		
生徒の自主的・自発的活動を支援する	⑧ ホームルーム活動と部活動の活性化	特別活動課	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A	○部活動の参加者を増やしてほしい。運動部が活発に活動していると、学校に活気が見られる。 ○研修会館での作品展示などもより工夫してみてはどうか。
			① ホームルーム活動の時間数が確保できたか。ホームルーム活動の内容(18項目)が実施されたか。	① 学年やクラスで若干の差はあるものの、ほぼ年間の計画どおりに実施できた。		
		② 活動者数(部員数)は増えたか。大会参加や発表の機会は増えたか。大会等での成績は向上したか。	② 全体の活動者数は昨年とほぼ変わらないが、全体的に活動は活発になり成績も向上しつつある。			
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見)		
特別活動課	① 生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようなホームルーム活動を行う。	① 生徒による自主的・実践的な活動を目指しホームルーム活動を実施しており、自主的な活動も増えつつある。	担任や顧問の指導の下ホームルーム活動、部活動とも活動は活発であり、自主的・意欲的な活動が増えている。			
	② 生徒自らが意欲的に活動できる充実した部活動を行う。	② 多くの部活動で生徒自らが意欲的に取り組んでおり、活動が活発になってきた。				